

NO.131 仙台空港の民営化から始まったこと

2017年1月16日

あおぞら投信株式会社

『民の知恵 官の経験 組み合わせ 国の資産を 顧客本位へ』

昨年は新たな胎動の年になると述べてきました。その動きの1つとして2016年7月1日、宮城県の仙台空港が民営化されました。国が管理する全国の地方空港の中では初めての試みです。東日本大震災の津波で大きな被害を受けた仙台空港が全国の地方空港の活性化に向けての第一号となったのです。ではこの民営化はどのような変化をもたらすのでしょうか。

仙台空港の民営化では、これまで国が滑走路を、宮城県出資の第3セクターが空港ビルと貨物ターミナルをそれぞれ運営していた状態から、すべてが民間企業の運営へと変わりました。これにより効率のよい一体的運営となり、民間ならではの経営ノウハウの導入が可能となりました。今後30年間の運営を担うこととなった運営体は長期プランが立てられることとなります。具体的には、これまでの航空会社からの収入以外に、新たな収入源として、ひとつは空港ビルの土産物や飲食からの収入があります。飛行機に乗る直前まで買い物や飲食を楽しめるよう、利用客の動線を徹底的に分析することにより、魅力的な店の配置が可能となります。他にも、貨物ターミナルからの収入も新たな柱とすべく、地元水産加工会社や農家に向けて、空港利用での輸出を呼びかけています。これにより30年後の貨物量を現在の4倍とすることを目指しています。

国内ではようやく空港民営化がスタートしましたが、海外ではすでに多くの空港が民営化し、利用客増加に成功しています。1986年のロンドン・ヒースロー空港がその代表格ではないでしょうか。土産物や飲食店の充実もありますが、何と言ってもサービスが真に顧客本位となったことが成功のカギだと思います。仙台空港も成功のためには、運営会社のみならず地元自治体や企業との協働が肝心です。そのことで宮城県や東北地方の魅力伝えることが可能となり、民営化成功への道が開かれていくのだと思います。

主な空港の民営化（実施と計画）

海外		日本	
年	空港名（国・都市名）	年	空港名
1986年・実施	ヒースロー（英国・ロンドン）	2016年・実施	関西/伊丹、 仙台
1998年・実施	シドニー（オーストラリア）	2018年・計画	高松
2001年・実施	フランクフルト（ドイツ）	2019年・計画	福岡
2005年・実施	シャルル・ド・ゴール（フランス・パリ）	2020年・計画	新千歳*

*北海道内複数空港の一体的な運営について検討中。
※静岡空港、神戸空港等においても民営化を検討中。

出所：国土交通省ホームページ、各種報道よりあおぞら投信が作成

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号：あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第2771号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス：<http://www.aozora-im.co.jp/>